学校番号	317

平成 31 年度　国語科

教科	国語科	科目	古典Ａ	単位数	２	年次	３
使用教科書	「古典Ａ　物語選」　（大修館書店）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・社会へ出る上で必要な教養を身につけましょう。
・上代から近世までのさまざまな文章に接し、悠久の人間の営みを思いやりましょう。
・時系列の中で、変化したもの（仮名遣い、語句の意味、活用など）と、していないものを見極めましょう。
・学習する上で、文法力と単語力はかかせません。まめに辞書を引きましょう。
・事前に本文に目を通し、分からない単語を調べておきましょう。
・授業中の小テストなどは、一所懸命取り組みましょう。
・提出物は、期日を守って提出しましょう。

２　学習の到達目標

・さまざまな文章を読み、そこに現れている人間像を的確に把握できる。
・文章を理解する上での手段として、文法力と単語力を身につける。
・時代の流れの中で、変化したものと、しないものを区別し、さらに人間とはなにかという問題にアプローチする。
・進んで読書することで、課題に自発的に取り組む習慣を身につけさせる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を高めるとともに、その歴史を時系列に理解し、言語文化の対する関心を深め、国語を尊重して、その向上を図ろうとする。			主張、構成などを的確に捉え、文学的な文章については心情や情景を正しく読み取り、論理的な文章については、筆者の主張を正確に把握する。	伝統的な言語文化や言葉の特徴やきまり、漢字やかなどについて理解するとともに、語彙の知識を身につけている。
評価方法	行動の観察 記述の点検 （授業のプリント、問題集の提出等）			記述の確認と分析（授業のプリント、問題集、提出物） 定期考査	記述の確認（授業のプリント、問題集、提出物等） 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1学期	随筆	「枕草子」(すさまじきもの) 比較的読みやすい随筆によって古文の基礎事項を再確認する。	○			◎	○	a 現代との違いをしっかり把握している。 d なめらかに音読できる。 e 「ものづくし」の特徴を理解している。	a、d, e授業のﾌﾟﾘﾝﾄの記述の確認。授業での発表。定期考査。
	物語	「伊勢物語」(関守) 歌物語によって、和歌の技巧を学習する。	○			◎	○	a 当時の恋愛のｼｽﾃﾑを理解している。 d 和歌を中心に展開する物語を理解している。 e 悲劇に終わる展開を理解する。	a、d、e授業のﾌﾟﾘﾝﾄの記述の確認。定期考査。
	随筆	「方丈記」(安元の大火) 歴史史料としての価値についても確認する。	○			◎	○	a 二年生の「養和の飢饉」とともに、第一級の歴史史料であることを理解する。 d 筆者の冷静な観察記録を読み取る。 e 日本史の教科書の記述と比較できる。	a、d、e授業のﾌﾟﾘﾝﾄの記述の確認。
	物語	「大鏡」(三船の才) 藤原摂関家の華々しい実情を学ぶ。	○			◎	○	a 平安時代の華やかな貴族文化を理解する。 d 藤原公任の心情を読み取る。 e 摂関家の実像を読み取る。	a、d、e授業のﾌﾟﾘﾝﾄの記述の確認。定期考査。
2学期	物語	「源氏物語」(葵) 当時の貴族の恋愛事情を学ぶ。	◎			◎	○	a 当時の貴族の恋愛を理解する。 d 難解な文章を読みこなす。 e 文学史上の源氏物語の位置を理解する。	a、d、e授業のﾌﾟﾘﾝﾄの記述の確認。

	物語	「平家物語」（能登殿の最期） 軍記物語の特徴を理解する。	◎			◎	○	a 当時の武士のあり方を理解する。 d 難解な文章を読みこなす。 e 文学史上の平家物語の位置を理解する。	a、d、e授業のﾌﾟﾘﾝﾄの記述の確認。定期考査。
	日記	「土佐日記」（阿倍仲麻呂の歌） 日記の特徴を理解する。	○			◎	○	a 日記文学の形式・文体を理解する。 d 話の内容を時代背景とともに理解する。 e 遣唐使の意義について理解する。	a、d、e授業のﾌﾟﾘﾝﾄの記述の確認。定期考査。
3学期	日記	「紫式部日記」（和泉式部と清少納言） 人物評について理解する。	○			◎	○	a 日記の意味の理解 d 作者の、ライバルに対する対抗心めいたものを読み取る。 e 現代人と変わらない人間くささについて知る。	a、d、e授業のﾌﾟﾘﾝﾄの記述の確認。出席。

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:話す・聞く能力　c:書く能力
d:読む能力　e:知識・理解

※　年間指導計画作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。